

学校の規模についての調査

(小中学生の保護者及び学級数の多い学校の声)

1 小中学生の親の声 (親の視点)

小中学生の保護者 9 人から学校生活全般に関し、学校が小さい場合、大きい場合に感じる事、思っている事について聞き取りをし、まとめた。

学校が小さい場合を感じる事

- ・子供や先生が少人数なのでさまざまな人間関係の経験が少なくなる。
- ・子供の数が少ないので、先生が目が行き届く。
- ・大縄とび、野球などの遊びや授業ができない。
- ・友達関係が同じ顔ぶれのため子供に身につく人間関係の対応策がパターン化されてしまう。
- ・子供の仲間で役割が固定化されてしまい、さまざまな人間形成の可能性が閉ざされる。
- ・いじめや不登校が少ないと思う。
- ・図書館が小さく、本の冊数や種類が少ない。
- ・子供同士の競い合いが少なく向上心が育たない。
- ・学習や委員会などの活動において、さまざまな順位や役割の経験が少なくなる。
- ・中学での部活の種類が少なく、やりたい部活がない場合がある。
また、部活の維持、運営に苦労する。
- ・先生数が少なく、専門教科以外の先生から授業を受ける可能性がある。
- ・役員や学校行事など保護者の負担が大きくなる。
- ・学校と地域のつながりが強い。
- ・親の人数が少なく、同世代の子供を持つ相談相手が少なくなる。

学校が大きい場合を感じる事

- ・クラス替えができ、さまざまな個性と出会え、いろいろな人間関係を経験できる。
- ・学習やさまざまな活動において、いろいろな子供の組合せができるいろいろな役割を経験できる。
- ・運動会のリレーなど、子供の活躍の場が少なくなる。
- ・同学年内でクラス同士の競い合いができ、力を合わせて得られる喜び（球技大会、合唱など）を経験できる。
- ・子供の人数が多く、先生の目が行き届かない。
- ・部活動の種類が多く、活動内容も活発であり、達成感、充実感を得ることができる。
- ・教科ごとに複数の先生がいるので、多くの先生に出会える。
- ・役員や学校行事において親の負担が少ない。
- ・子供同士のつながりが広がることで、親同士のつながりも広がる。
- ・排他的なグループができやすい。
- ・クラス替えは子供同士のいじめやトラブルがあった場合一つの解決策となる。
- ・学校の規模が大きくなるほど、保護者と学校の関わりが少なくなる。

2 学級数の多い学校の声（大規模校の視点）

新潟市内の学級数の多い小中学校5校に教育環境や学習環境，社会性の育成と生活環境，学校経営・運営の面において良い点と悪い点について調査したもの。

- ・学級編制などにより，人間関係が固定化しない良さがある。
- ・リーダーを体験する機会が比較的少なくなる。
- ・人数が多いことから，子供たちが互いに切磋琢磨しながら成長する様子がみられる。
- ・関わりの少ない生徒や教職員がいて，関係性が希薄になりやすい。
- ・体験活動では，学年一斉の校外活動ができないことや，一人一人の活動時間がわずかで，充実した活動が難しい。
- ・いろいろな個性を持つ多くの仲間や教職員と多様な人間関係が経験でき，様々な考え方に触れることができるので社会性を育みやすい。
- ・特別教室が少なく，授業での利用にあたり調整が難しい。
- ・児童生徒数に比べて体育館，グラウンドがせまく，授業，集会，休み時間等あらゆる活動が制限され，不自由さがあり，安全面で配慮が必要。
- ・教材や教具の数が不足し，教育活動に支障をきたす。
- ・静かで落ち着いた生活環境とはいえず，ストレスを受けやすい。
- ・トイレや水飲み場の数，保健室の広さが十分でない。
- ・教員が多いので，いろいろな特技や専門性を持つ職員がいることで学校運営に多様な活動を取り入れることができる。
- ・児童生徒数が多く、教職員全員が全児童生徒のことを深く理解し，共通理解のもと指導することが難しい。
- ・人数に比例して配慮を要する子供の数が多く，対応や支援に苦慮することが多い。

（次頁に続く）

- ・組織力を生かしたダイナミックな教育活動を展開することができる。
- ・生徒教職員が多く、何をするにも事務量が膨大であり、処理に時間がかかる。
- ・教職員の情報の共有化や意思疎通を図ることが困難である。
- ・一人一人の職員の教育活動の把握が難しい。
- ・さまざまな保護者の相談・対応に苦慮する。
- ・全校的な活動の実施では、計画、準備、実施に膨大な時間と労力を要し負担も大きい。
- ・地域の保護者の力、そして生徒の人間力に助けられている。